

研修内容の紹介

～総合都市交通体系調査、
パーソントリップ調査の解説を含む～

一般財団法人 計量計画研究所
都市地域・環境部門 小島 浩

総合都市交通体系調査とは

企画→実態調査→分析→予測→提案を含む
一連の取組み

- ① P T 調査等の企画、交通実態調査
- ② 現況分析による現況問題・課題の整理
- ③ 将来交通量予測、将来課題の整理
- ④ 交通マスタープラン、都市交通戦略等の提案

国土交通省都市局の補助調査

総合都市交通体系調査の進め方

総合都市交通体系調査 (総合的な都市交通計画を策定する調査)

事前検討調査 (企画・準備)



1年目

実態調査等 (パーソントリップ調査)

2年目

交通実態の分析および将来交通量の予測

3年目

計画施策提案 (都市交通マスタープラン等)

3

総合都市交通体系調査の長所

(1) P T 調査は

「全手段及び属性を持つ唯一のデータ」

- ・マルチモード : 全交通手段 (車、鉄道、バス..)
- ・個人・世帯属性 : 年齢、自動車保有、子育て世帯等

(2) P T データに基づいた分析や代替案評価によっ

て計画、施策提案に明確な根拠となる

データに裏付けられた、説得力ある施策提案を強力に支援！

4

(3) 計画・施策の説得力を高める総合的な検討が可能

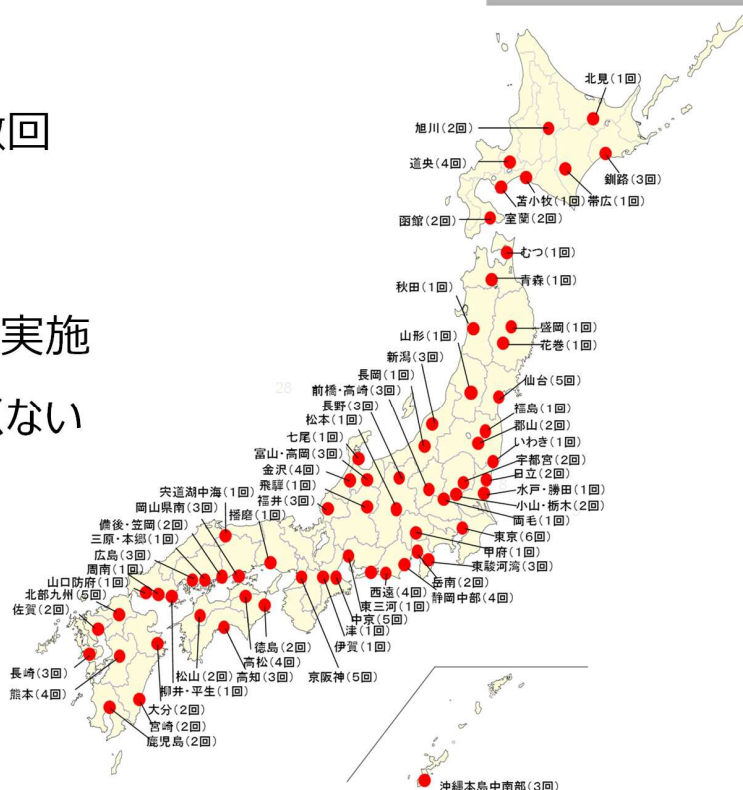
- ① 交通手段の総合性
- ② 交通計画と土地利用計画の総合性
- ③ ハード施策とソフト施策の総合性
- ④ 広域交通計画と地区交通計画の総合性
- ⑤ 長期計画と短期計画の総合性

(4) 近年のニーズ変化と重要性の高まりに対応した検討が可能

近年、人口減少、公共投資余力の減退などを背景に、目標に対して
効率的かつ重点的な計画を提案することが求められてきている

都市圏パーソントリップ調査の実施状況

- 65都市圏で実施
- 主要都市圏では複数回
(2020年4月時点)
- 一方、継続的な調査実施
困難な都市圏も少なくない



総合都市交通体系調査の課題

①調査費用が膨大で、高頻度な実施困難

②課題の変化に伴った、新しい取り組みの必要性

ex. 課題に対応した調査方法（付帯調査 等）

ビッグデータなどの既存データ有効活用

**本研修で、
一般的な手法を紹介しつつ新しい手法・事例も紹介**

新たな総合都市交通体系調査の方向

①今後の調査のあり方

（講習2）標準的な調査の実施手法と新たな方向性

②新たな総合都市交通体系調査の役割・手法

（講習4）分析とプランニング

（講習5）評価及びデータの可視化

本研修のプログラム

講習1
総合都市交通体系調査の概要と
意義

国土交通省都市局都市計画調査室

講習2
標準的な調査の実施手法と新たな
方向性

計量計画研究所



講習3 調査の実施手法

計量計画研究所



講習4 分析とプランニング

計量計画研究所



講習5 評価及びデータの可視化

計量計画研究所

講演と調査事例紹介

調査・活用事例の紹介

高松PT調査のアウトプットについて ～EBPMとしての活用事例～

高松市 都市整備局 都市計画課

広島市交通実態調査及び広島市総合交通戦略の改定について

広島市 道路交通局 道路交通企画課

講演

都市交通ビジョンとMaaS～新モビリティ時代における行政の役割と期待～

計量計画研究所 理事

牧村 和彦

これからの都市交通とまちづくり

計量計画研究所 代表理事

岸井 隆幸

本研修の役立て方（研修のねらい）

- ① **総合都市交通体系調査の重要性・有効性の理解**
 - ・ 新たな総合都市交通体系調査実施のきっかけに！
- ② **総合都市交通体系調査の内容・留意点の理解**
 - ・ 総合都市交通体系調査実施を予定している都市圏で、調査の円滑な実施に資するとともに調査成果をレベルアップ！
 - ・ 具体の取組みの予定がない場合、都市交通に関する知識習得、新たな調査企画を提案する際の参考に！
- ③ **総合都市交通体系調査成果の有効活用方策の理解**
 - ・ 調査データや計画提案を活用した取組みを推進！
- ④ **先進的な調査・計画事例の理解**
 - ・ 総合都市交通体系調査や成果活用のレベルアップ！